

私の生徒指導 ②

生徒同士が意見を述べ合う場を多く設定する

私が生徒指導で最も意識しているのは、集団の力を最大限に引き出すことです。一人ひとり優秀でも、それぞれがスタンドプレーに走ったら組織としての力は発揮されません。同じ志を持つ人が集まり、同じ目標に向かって個々の力を発揮できる組織ほど、成果を上げ、個人の力も最大限に引き出せると思っています。

例えば、文化祭では生徒同士のミーティングに時間を掛けます。私のクラスでは、今年、お化け屋敷を企画しました。リーダーを立候補で

集団の中での役割を意識させて 主体性を引き出す

愛媛県立三島高校 高田潤哉

集団での力を最大限に引き出すことが個々の力を育てることにつながると考える高田潤哉先生。
日頃からの生徒との何げないコミュニケーションも重要だと話す。

選び、そのリーダーの下で、出し物の内容や演出方法、目標動員数などを生徒間で徹底的に話し合わせました。そして、本番直前までリハーサルを行って問題点を確認し、再び解決策を話し合わせました。ミーティングでのルールは、提案や意見は全てその場で出し切ること、ミーティングでの決定事項は必ず守ることの2つです。人前での発言が苦手な生徒はアンケートに提案や意見を書き、それをリーダーが読むという方法を取り入れ、出来るだけ広く生徒から意見を吸い上げる工夫をしました。

ミーティング後に「本当はこうしたかった」などと不平不満が出ると、皆の心が1つにまとまらず、結

果的に取り組みの質が下がります。そうになると、「今日は部活動があるから」などと言って抜けていく生徒が増え、いつも同じ生徒が準備を進めるという状態になりかねません。

逆に、生徒全員参加で主体的に進めていく雰囲気がつくれると、団結力が違ってきます。単にお化け屋敷を作って来校者を楽しませたという結果だけでなく、そこに至るまでの努力も生徒の大きな財産になります。ミーティングを重ねてさまざま意見を集約し、リハーサルをして問題点を洗い出し改善につなげる。そうした綿密な準備を通して生徒に達成感を味わわせることが、社会に出た後も集団で何かをやり遂げる力

になると考えています。

意見がぶつかった時こそ 生徒が成長するチャンス

集団で何かを行う時、往々にして生徒間で衝突が起こります。そうした時こそ、生徒の成長や集団の団結を促すチャンスだと思います。

顧問を務めるソフトテニス部では球拾いをしない生徒が時折、他の部員から非難を受けます。そうした時、私はまず部全体に対して集団で団結する意義を説き、次に問題の生徒と話をします。球拾いは誰もが必要マナーのようなもので、それをしないのは他人任せに生きている証

拠ともいえます。それでは主体性は育めませんし、次の高みへも導けません。内心、生徒もそれが大切だと分かっているはずですから、私は根本的に大切なことを自分でしっかりと出来るようになる重要性を説きます。

指導は、生徒の弱い部分に向き合うことだと思えます。注意した時は私に反発心を抱くかもしれませんが、自分のために注意してくれたと分かれば、心を開いて話をしてくれるようになりますし、他の生徒の意見も受け入れるようになります。また、私が厳しく指導することで、周りが気を使ってその生徒を慰めることもあります。そのように、時には私が嫌われ役になることで、生徒が



愛媛県立三島高校
高田潤哉
たかた・じゅんや
教職歴12年。同校赴任歴9年
目。進路課、数学科担当。

愛媛県立三島高校
◎1923(大正12)年開校/全日制、普通科・商業科(3学年のみ情報デザイン科)、共学/1学年約270人/2013年度入試合格実績(現浪計)は、国立大は東京大、大阪大、九州大などに74人が合格。私立大は早稲田大、同志社大などに延べ172人が合格。

主体的に動き出し、結果的に部全体の結束が強くなることもあるのです。

集団の中での自分と他者の役割を理解させる

課外活動でも集団の力を育むことを意識しています。以前、数学教師を志望する生徒をリーダーにして3人1組のチームを作り、県の科学コンテストに応募しました。リーダーの生徒はその素質があると見込んで抜擢しましたが、初めは考えがたくなで、自分の思い込みで突っ走ってメンバーとよく衝突していました。やがて、メンバーは私にリーダーへの不満を言い始めました。私は「彼にも考えがあるだろう。不満があるなら直接本人に言いなさい。それで人間関係が壊れそうになるのなら、その時は私がフォローしよう」と話し合いを勧めました。チームで話し合わせると、リーダーは自分の至らないところを素直に認め、その後は「自分は数学と化学を担当するからA君は生物を」というように、個々

の強みを生かして役割分担をするようになりました。リーダーがメンバーに任せることでメンバーも主体的に活躍できるようになり、その結果、チームは大会を勝ち進み、愛媛県代表として全国大会出場を果たしました。チームのために何をすればよいのかを各人が考え、互いの役割を理解し合う、集団としての力が最大限に発揮された例だと思います。

日常のコミュニケーションが生徒指導の効果を高める

こうした生徒指導を実現するためには、私は普段から意識して生徒とコミュニケーションを取り、生徒個々の気質や強み・弱みなどを把握するようにしています。本校の生徒は控え目で自分をあまり出したがらないので、清掃活動や休み時間などを利用して、私から積極的に生徒に声を掛けるように心掛けています。普段からそうした人間関係づくりを大切にしておけば、いざという時に生徒から本音を聞き出すことがで

き、生徒指導の効果も高まります。また、生徒は社会は厳しいものと漠然とイメージしているので、自分をきちんと見てくれていた大人が必ずいると知ってもらうことも目的の一つです。自分の声を聞いてくれる人がいるという安心感が、社会へ向けて一步を踏み出す勇気を、生徒に与えるのではないでしょうか。

各人が力を発揮できる集団づくりを意識してするようになってから、私が特に指示しなくても、「こう考えたのですが、どうでしょうか」というように、自ら考えて行動する生徒が増えているのを感じます。行事や部活動だけでなく、学習面においても、「もうそこまでやっているのか」と驚かされるほど、自分で考えて先に進んでいく生徒が少なくありません。そうした生徒は、3年生になつてからも進路実現に向けて主体的に学習に取り組むことでしよう。更には、社会に出た後も、集団の中で他者と自分を生かしながら、目標に向かって主体的に取り組める人に育つていくと期待しています。